

1 目標（何を目指すのか。）

【通年】

大阪市と事業者が協働により事業を進めていくことによって、貴重な都市資源である湿地の生物多様性を維持し、市民にとって身近で貴重な環境学習の場を提供すること。

2 使命（どのような役割を担うのか。）

【通年】

- ① 多様な生きものが生息し、特に、様々な種の渡り鳥（長距離を渡るシギ・チドリ類を含む）が利用できる湿地を保全するために、モニタリングと順応的な管理を継続する。
- ② 大阪市内にあって大阪湾を望む景観（「住之江区の都市景観資源」として平成 24 年 12 月 21 日に登録）の中で、湿地を利用する渡り鳥や、それを支える干潟の様々な生きものの観察ができ、渡り鳥や干潟のことを学べる貴重な場を提供すること。

3 平成 28 年度 運営の基本的な考え方（方針）

(1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園

多様な生きものが生息し、渡り鳥が多く飛来する豊かな干潟を含む湿地を保全・再生するため、現状を生きものの視点から正確にモニタリング評価し、湿地再生プロジェクトチームでの議論も踏まえ、順応的管理を実施する。

- ① 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善
- ② 市民参加による湿地保全作業の実施

(2) 渡り鳥と人をつなぐ野鳥園

環境学習会を企画実施し、渡り鳥の魅力やそれを支える貴重な自然環境（生態系）としての干潟の大切さを理解、共感してもらう。

- ① 魅力ある環境学習会の実施
- ② 広報活動の充実
- ③ トータルコーディネイターの育成

※野鳥園内の干潟、塩性湿地、汽水池を含む環境を含めて湿地とする。

4 重点的に取り組む課題 — (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～

<p>将来像 (平成31年 3月末時点)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. シギ・チドリ類の種数 ^{*2)} <ul style="list-style-type: none"> ・春(3～5月)：シギ・チドリ類の渡来種数 22種 ・秋(8～10月)：シギ・チドリ類の渡来種数 24種 干潟の順応的管理により、シギ・チドリ類の中継地としての役割を将来にわたって果たしていく。 2. シギ・チドリ類以外で湿地を利用する野鳥の種数：60種 湿地で生活するシギ・チドリ類以外のカモ類、サギ類、その他の野鳥の生息環境を保全する。 3. 有機物が適度に堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息している底質。 <p><small>*2) シギ・チドリ類の個体数は、東アジアの繁殖地・中継地・越冬地での減少が著しいため、個体数ではなく、種数の目標設定のみとした。</small></p>
<p>現状 (課題設定の 根拠となる現状)</p>	<p>日本国内の他の干潟と同様に、野鳥園に渡来するシギ・チドリ類の個体数は年々減少している。しかし、野鳥園は、湿地の保全・再生と順応的管理を開園(1983年9月)以後から継続して実施しており、生息環境が減少または悪化するシギ・チドリ類の大切な中継地となっている。</p>
<p>要因分析 (目指すべき将来像と 現状に差が生じる要因)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 繁殖地・中継地・越冬地での個体数減少や温暖化による生息環境の変化 2. 野鳥園の干潟の現状 ^{*3)} <ol style="list-style-type: none"> 1) 干潟表層の有機物堆積層の流出 2) カキ礁の拡大による干潟面積の減少(北池) 3) 干潟の一部の砂質化 4) 干潟表層のバイオフィルムの減少 5) 地盤沈下による浅場面積の縮小と深場の拡大(地盤は年間に平均1センチ低下)など 3. 干潟周囲林の高木化と高木への猛禽類の定着によって、湿地を利用する鳥類が昼間にじっくりと採食できない状況 <p><small>*3) 5項目の干潟環境の変化はあるが、湿地の生きものの現状は、貝類69種を含めて203種の多様な海岸生物(絶滅危惧種は34種を含む)がバランスよく生息している。しかし、開園以来、上記1)～5)のように干潟の状況の変化が発生しており、多種多様な干潟の生きものがバランスよく生息している現環境と、渡り鳥の餌となる生き物の生息環境を保全するための対策をとる必要がある。</small></p>
<p>課題 (上記要因を解消する ために必要なこと)</p>	<p>有機物が堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が多く生息し、安心して採食でき、満潮時に休み場がある環境づくり。</p>
<p>手法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 南池水門の撤去：南池から西池への流れをよくし、南池干出面積を大きくする。 2. 有機物を堆積しやすくすることによって小型シギ・チドリ類が好む餌場づくりをおこなう。 3. 満潮時の鳥類の休み場づくりをする。 4. 北池の浅場の砂質化を防ぐ長期的方策の検討(カキ礁拡大防止も含めて)。 5. 干潟周囲の高木(主にクロマツ)の剪定。 6. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善 7. 塩分の測定。

		中間評価 (評価日：平成 28 年 12 月 20 日)	年度評価 (評価日：平成 29 年 6 月 5 日)
評価	年度目標の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項	1. シギ・チドリ類の渡来種数： 春（4～5月） 24種類 秋（8～10月） 27種類 2. 南池水門の撤去： 実施（8月3日） 3. 塩分の測定： 大阪市立大学の協力のもと干潟現況調査や底生生物調査に合わせて2回実施。（7月20日、8月17日） 4. 干潟への落ち葉投入による環境改善： 北池で4m×4mの3つの実験区を設け、腐葉土化させた落ち葉投入区域、腐葉土化させていない落ち葉投入区域、何も施さない区域とした。2週間ごとの簡易調査、1か月ごとの定期調査で水質調査、底質調査、底質分析、ベントス調査を行っており、3月までモニタリングを継続予定である。 5. 干潟周辺の高木（クロマツ等）の伐採による猛禽類対策： 南観察所付近の高木（クロマツ等）を11月伐採完了（約30本）。 6. 立入禁止区域への侵入者対策として、業者による巡回警備に加えて、職員による巡回を適宜実施し、新たに侵入防止柵の設置等を行った。	1. 干潟・湿地の順応的管理として、西池から導水管への海水の流れをよくするために西池北側の滞筋掘りを行った。 2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善： 10月21日に投入した落ち葉による環境改善について、水質調査、底質調査、底質分析、ベントス調査を継続して実施し、3月に開催した湿地再生PTにおいて結果の共有化を図った。 3. 塩分の測定： 大阪市立大学の協力のもと実施した。年間3回（7・8・12月） 4. 立入禁止区域への侵入者対策として継続して巡回を適宜行うとともに、侵入時の目隠しとなっていた樹木の伐採を行った。
	自己評価	課題となっていた項目の多くを達成しつつある。 1. シギ・チドリ類の渡来種数については、春も秋も目標を達成した。 2. 南池水門の撤去が完了し、南池からの海水の排出がスムーズになり、干出面積の増加につながった。 3. 塩分測定については引き続き継続し、データの蓄積を行う。 4. 高木を伐採したことによる猛禽類の定着率の変化については経過観察中である。	1. 塩分の測定は、引き続き実施し、干潟現況調査時や環境保全時に行う。 2. 西池北側の滞筋掘りを行ったことによって、流れが良くなり、干潟の干出面積が広がったことで、シギ・チドリ類が多く餌を採るようになった。 3. 落ち葉の投入は底層生態系の創出に有効である可能性が高いことがわかった。 4. 侵入者は以前より少なくなったように感じるが、引き続き対策を講じていく。 5. 干潟周辺の高木（クロマツ等）の伐採による猛禽類の定着率の変化は引き続き経過観察が必要である。

<p>課題と改善策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西池と北池から海水とともに土砂が流出し、西池導水管付近に堆積しやすくなり、導水管から出入りする海水の流れを妨げているため、除去作業を検討している。南池水門撤去の効果をより高める狙いも持つ。 2. 北池のカキ礁が拡大し、鳥類のえさ場を狭めているため、南池に一部移動し鳥類の休み場として活用することを検討している。(南池は鳥類の休み場が不足。) 3. 北池の浅場の砂質化の抑制については、干潟内への落ち葉投入による変化を観察し、効果を期待したい。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 落ち葉の投入による底生生態系の創出、砂質化の抑制に関する効果については、経過を観察しつつ、今後の方策を検討する。 <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北池に拡大するカキ礁の手入れ作業を平成 29 年夏に築港中学校・海遊館との共同プロジェクト(一部大阪府立市岡高校も参加)として実施することとなった。広がっているカキ礁を北池の中の浅い部分移動させ、積み重ねて鳥の休み場などとして再活用する予定。 <p>※上記共同プロジェクトとは別に、南池にカキ礁を利用した鳥の休み場を作ることも検討している。</p>
<p>委員評価</p>	<p>塩分測定を早速行っており評価できる。今後はより測定の合理性を高め、モニタリングを継続し環境改善に繋げてほしい。背後の森と湿地との連関を意識した生態系の保全・再生を期待する。</p>	<p>落葉の投入に関しては、適切な調査方法のもと、湿地生態系の創出に有効である可能性が高いことがわかり、評価できる。引き続き経過観察に取り組んでほしい。</p> <p>塩分測定については、日常的に簡易に測定できる体制を整え、調査頻度を高めるべきであり、具体的な取り組み方法については湿地再生PTでの意見も参考に検討すべきだ。</p>

重点的に取り組む課題 — (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～

具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	平成 28 年度目標	平成 28 年度実績	中間実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	平成 27 年度実績
鳥類調査	鳥類調査実施回数	26 回	26 回	23 回	18 回	△3 回	△3 回	23 回
	大阪府一斉ガンカモ調査への情報提供	実施	実施	1 月実施	1 月実施予定	達成	達成	実施
	環境省（モニタリングサイト 1000）への情報提供	実施	実施	実施	実施（6 月、10 月）	達成	達成	実施
湿地再生 PT	湿地再生 PT の開催	2 回	2 回	1 回	3 月実施予定	△1 回	△1 回	2 回
	湿地再生 PT で提示する資料整理（調査）	毎年データ更新	実施	実施	3 月実施予定	達成	達成	実施
	—	—	落ち葉投入について研究結果を報告	実施	3 月実施予定	—	達成	—
底生生物調査	底生生物調査	2 回	2 回	2 回	1 回	達成	達成	2 回
	塩分の測定（客観的なデータの収集）	実施	実施	実施	実施（7 月、8 月）	達成	達成	—
漂着ゴミ回収と除去作業	実施回数	3 回	3 回	2 回	2 回	△1 回	△1 回	2 回
	ボランティア参加人数	400 人	300 人	450 人	350 人	+50 人 達成	+150 人 達成	230 人
湿地の手入れ	ヨシ刈り、休み場づくり等の実施回数	5 回	5 回	9 回	5 回	+4 回 達成	+4 回 達成	5 回
	上記手入れと環境学習との連動	5 回	2 回	0 回	3 月実施予定（カキ礁移動）	△5 回	△2 回	1 回
	南池水門の撤去	—	実施	実施	実施（8 月）	達成	達成	—

4 重点的に取り組む課題 - (2) 魅力ある環境学習会の実施～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

計画	将来像 (平成31年 3月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な体験型環境学習ができる場として、季節に応じて魅力あるプログラムを企画実施する。 2. 環境学習および野鳥ガイドは、土曜、日曜または祝日に実施する。
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習の内容が固定化している。 2. 年間の環境学習会の開催が少ない。
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習を企画実施できる知識のある人材が固定化している。 2. 管理体制の変更により、環境学習に関して、対応可能な日数と人材登用数が限られ、実施回数が限られている。
	課題 (上記要因を解消するため に必要なこと)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習を開催できる人材の幅広い育成 2. 必要経費の確保
	手法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習の手法の改善について検討する。 2. 現在の野鳥ガイドのフォローアップ研修を行い、種々のガイドや環境学習会に対応できる人材を育成する。 3. 企業の協力のもと、企業や市民双方にとって有益で魅力あるイベントを検討する。 4. 地元住之江区内の学校や市民に環境学習の場として野鳥園を利用してもらうように働きかけを行っていく。

評価		中間評価 (評価日：平成 28 年 12 月 20 日)	年度評価
	年度目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年誕生した 21 名の野鳥ガイドについては、実際にガイドを行うことに加え、フォローアップとして環境学習会、ヨシ刈り、漂着ゴミ収集活動等にも参加することで総合的に経験を積んでいる。 2. 広報活動の充実により、環境学習会には 8 月のアカテガニ観察会までで約 30 名の初参加者があった。 3. 環境学習会の定員充足率は平均で 56.3%である。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年 1 月に開催した「夕暮れカモかんさつ会」では、定員 50 名に対して、参加者数は 27 名と定員を下回る結果となった。平成 28 年度の環境学習会の平均定員充足率は前年度の 50%を上回ったものの 56.0%であった。 2. ハクセンシオマネキ観察会や大阪湾生き物一斉調査には築港中学校の生徒及び教員が参加した。 3. 市内中学校の理科教員研修会に参加し、野鳥園での活動を PR した。
	自己評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一人で解説できる野鳥ガイドの数については、昨年度と同様となっている。休日のガイドは基本的には 1 日 2 名体制で行っているが、来園者が多い時期などは 3 名体制で行えるようにガイドの増員を図りたい。 2. 環境学習会の初参加者数は、現時点で目標を達成している。環境学習会の定員充足率は、現時点で昨年度の実績を上回るものの、目標値は達成していない。 3. ヨコエビ定量調査については、築港中学校との協議により次年度秋に実施することとなった。また、次年度は体験学習として湿地の手入れ作業の実施に向けても同中学校と調整中である。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「夕暮れカモかんさつ会」においては、約 8 割の参加者は内容やスタッフの対応について、「やや満足」「満足」と回答しているものの、約 2 割の参加者は鳥の種類・数が少なかったことなどから「どちらとも言えない」「無回答」と回答している。参加者の満足度を向上させ、リピーターを確保し、定員充足率を向上させるためにも、野鳥の飛来状況に関わらず、参加者が観察会をより楽しめる工夫が必要である。 2. 野鳥ガイドについては、フォローアップ研修を実施したほか、ガイド増員に向け、準備を進めた。次年度に増員を行う予定である。
課題と改善策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報手法だけではなく環境学習会の内容や広報期間、開催時期についても考慮し、定員充足率の目標の達成を目指す。 2. 地元の住之江区内の学校に参画を呼び掛けるなど、環境学習の利用拡大に向けた取り組みを行う。 3. 企業との連携については、他都市の類似施設の取り組みも参考にしつつ引き続き検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習会の内容を充実し参加者がより観察会を楽しめるように工夫に努め、定員充足率の向上を図る。アカテガニ観察会についても観察方法の改善を検討する。 2. 現在、環境学習に参加している学校は港区の学校であるが、今後も引き続き住之江区内の学校にもアプローチしていきたい。 	

	<p>委員評価</p>	<p>環境学習の充実、定員充足率の確保に向けて引き続き取り組んでほしい。アカテガニ観察会は、参加者がより身近にアカテガニの放仔を観察できるように観察照明器具等を工夫してみてはどうか。</p>	<p>アカテガニ観察会については、来園者がより観察しやすくするため、湿地内に観察サイトの整備等を検討してはどうか。</p> <p>また、より魅力ある観察会や環境学習会とするため、鳥や生き物のイラストが入ったオリジナルグッズを作成し、参加者に配布するなどしてはどうか。</p>
--	-------------	---	---

重点的に取り組む課題 - (2) 魅力ある環境学習会の実施～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

具体的取組	計画			実績		振り返り		
	点検項目	最終目標	平成 28 年度目標	平成 28 年度実績	中間実績	最終目標比較 増△減	年度目標比較 増△減	平成 27 年度 実績
【定例】 野鳥ガイド	実施回数	40 回	36 回	36 回	27 回	△4 回	達成	36 回
	ガイド制服作成	実施	実施	実施	実施	達成	達成	実施
【定例】野鳥 の会・定例探 鳥会	実施回数	12 回	12 回	12 回	8 回	達成	達成	12 回
野鳥ガイド	登録人数	40 人	21 人 (昨年度確保した野 鳥ガイドのフォローアップ)	21 人	21 人	△19 人	達成	21 人
	一人で解説できる野鳥ガイドの数	25 人	21 人 (昨年度確保した野 鳥ガイドのフォローアップ)	15 人	15 人	△13 人	△6 人	15 人
環境学習会	単発観察会実施回数	6 回	6 回	10 回	7 回	+4 回 達成	+4 回 達成	5 回
	環境学習会初参加者数	30 人	30 人	45 人	30 人	+15 人 達成	+15 人 達成	51 人
	各環境学習会の定員充足率	平均 100%	平均 80%	平均 56%	平均 56.3%	△44%	△24%	平均 50%
企業との連携	企業からの協力を得たイベントの開催	実施	検討	—	検討	—	—	未実施
教員対象の環 境学習プログ ラム	環境学習プログラムのカリキュラムを 整備	教員対象プロ グラム (2 回)	児童・生徒対象プログラム実 施 (1 回)	—		—	—	児童・生徒対象プロ グラム実施 (1 回)
地元との連携	住之江区内の学校が環境学習会に参加	実施	参加呼びかけ	参加呼び かけ	参加呼び かけ	—	達成	—

4 重点的に取り組む課題 ー (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計画	将来像 (平成 31 年 3 月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野鳥園で開催している環境学習会について市民に広く知ってもらおう。 2. さまざまな環境学習の活用のあることを知ってもらう。 3. 野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民が知ること、自然環境への理解を深めてもらう。
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野鳥園で開催している環境学習会について認知度が低い。 2. 府下では年間で最も多くの野鳥 (150 種) が見られること、特に湿地では年間 90 種近くの野鳥が利用していることに対する認知度が低い。 <p>※ 開園以後に野鳥園で記録された野鳥の種類: 248 種、その中で湿地を利用する種: 140 種 (シギ・チドリ類: 53 種、カモ類: 20 種、サギ類: 12 種、それ以外: 55 種) (平成 28 年度 6 月現在)</p>
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	市民への広報不足。
	課題 (上記要因を解消するた めに必要なこと)	さまざまな媒体を利用しながら、広報を行う。
	手法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果的な媒体を活用し、幅広い層の市民へ野鳥園で実施している環境学習会について情報発信を行う。 2. 野鳥園に足を運んできた人に、親しみやすい掲示物や案内板等を製作する。 3. アンケートを実施し、野鳥園に対する利用者の評価や効果的な広報媒体を分析する。 4. 野鳥園での干潟・湿地環境保全活動、環境学習会活動について参加・支援する方を募集する「野鳥園サポーター制度」(仮称)の導入について検討する。大阪港開港 150 年記念事業へのイベント参画について検討する。

	中間評価 (評価日：平成 28 年 12 月 20 日)	年度評価
年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
取り組み事項	<ol style="list-style-type: none"> 環境学習会の情報発信は大阪市のホームページも活用した。 新たに、タウン紙や情報紙に環境学習会の案内や施設利用案内を掲載した。 野鳥の飛来状況について、野鳥園ホームページやブログでの情報発信や展望棟での掲示を行った。 野鳥園サポーター制度（仮称）の導入について、他都市の類似施設の取り組み調査等を行い、検討を行っている。 	<ol style="list-style-type: none"> 「夕暮れカモかんさつ会」では、初めて住之江区広報紙と毎日新聞にイベント記事を掲載した。また、同観察会の模様は市内湾岸エリアのケーブルテレビにて放映された。 リピーター確保にむけた手法を検討するため、観察会参加者に対しアンケートを実施した。 次年度に実施する「野鳥園だより」の企画準備を行った。 ※野鳥園だよりは、年間 4 回季節に応じて発行し、野鳥の飛来状況やガイド日、観察会の案内を掲載していく予定
自己評価	<ol style="list-style-type: none"> タウン紙や情報紙等の紙の広報媒体を通じ、インターネットを頻繁に利用しない方にも野鳥園の情報をアピールできるようにした。 野鳥の飛来状況を発信することにより、利用者の観察の手助けとなるように努めた。 広報媒体の拡大を図っているものの、環境学習会の定員充足率は目標値を達成していない。1 月のカモの観察会は地元（住之江区）の区広報紙を活用する予定である。 	<ol style="list-style-type: none"> アンケート結果によると、「夕暮れカモかんさつ会」では参加者の 25%が毎日新聞を見ての参加（住之江区広報紙は 0%）という結果であった。今後、区広報紙や新聞への掲載について拡充していく必要がある。 サポーター制度（仮称）に向けては、リピーター確保の取り組みを進めつつ、引き続き検討していきたい。 【参考】 ・平成 29 年度の春の野鳥かんさつ会では、新聞 2 紙、広報紙 3 紙（3 区）に掲載した結果、定員 50 名に対し、70 名ほどの申込があった。
課題と改善策	<ol style="list-style-type: none"> 区広報紙の積極的な活用も検討しながら、定員充足率の増加を目指す。 野鳥園サポーター制度（仮称）については、一般来園者がさらに野鳥園に関心を持ってもらえることを目指すとともに、無理なく運用できる制度となるよう、他都市の類似施設における取り組みも参考にしつつ、検討していく。 大阪港開港 150 周年事業への参加にむけて港湾局内で引続き調整中。 	<ol style="list-style-type: none"> 紙面での広報についてさらに充実を図っていく。ホームページや SNS を利用した情報発信についても、引き続き実施していく。 予算面での制約はあるが、野鳥園だよりや、観察会の定期的な個別案内（希望者）により、まずは野鳥園を再び訪れるリピーターを増やしていきたい。 大阪港開港 150 年記念事業へは参画に向け調整中。

	<p>委員評価</p>	<p>アカテガニの放仔は都心ではなかなか見られないという特徴を生かし、環境学習に興味のある学校関係者等に幅広く働きかけてはどうか。</p> <p>広報活動については、SNS を利用した情報発信などを検討してはどうか。(現在はブログやスタッフ個人による facebook 等により情報発信を行っている)</p> <p>サポーター制度については、有効かつ無理のない制度となるよう、制度内容を十分に検討してほしい。</p> <p>大阪港の環境保全に重要な役割を果たす野鳥園として、ぜひとも大阪港開港150周年事業に参画してほしい。</p>	<p>アカテガニ等、野鳥園の貴重な資源のPRについては、地元を中心として徐々に大阪市広域へ広げていくとのことであるが、スピード感を持ちつつ進めてほしい。</p> <p>大阪港開港 150 年記念事業への参画にあたっては、大都市の中にある貴重な自然環境であるという特徴もPRしてほしい。</p>
--	-------------	--	--

重点的に取り組む課題 ー (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	平成28年度目標	平成28年度実績	中間実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	平成27年度実績
ホームページの充実	野鳥ガイド案内	実施	実施	実施	実施	達成	達成	実施
	各イベント案内	実施	実施	実施	実施	達成	達成	実施
さまざまな広報媒体の活用	大阪市 HP	2回	2回	3回	2回	+1回 達成	+1回 達成	1回
	区役所にイベントチラシ配備	実施	実施	実施	実施	達成	達成	実施
	タウン紙・区広報紙	1回	1回	1回	1回	達成	達成	未実施
	ブログによる情報発信	実施	実施	実施	実施	達成	達成	実施
展望塔内の展示スペースの活用	更新回数	4回	3回	3回	3回	△1回	達成	2回
	野鳥写真の掲示	3回	3回	3回	3回	達成	達成	3回
	掲示板にイベントコーナー、お知らせコーナーの開設	実施	実施	実施	実施	達成	達成	実施
アンケートなどによる利用者ニーズの把握	常設アンケート	通年で実施	実施	実施	通年で1月以降実施予定	達成	達成	8～9月にかけて実施
	野鳥ガイド時のアンケート	通年で実施	実施	実施	通年で聞き取りにより実施	達成	達成	通年で聞き取りにより実施
サポーター制度	野鳥園サポーター制度(仮称)の導入	—	検討	検討	検討	—	—	—
大阪港開港 150 周年事業	大阪港開港 150 周年事業へのイベント参画	—	検討	検討	検討	—	—	—

4 重点的に取り組む課題		－ (4) トータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～
計画	将来像 (平成31年 3月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的知識を有する人材が、各事業を包括して計画、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、湿地の保全ができるようにする。 2. 環境学習会に参加することによって、シギ・チドリ類を含む野鳥、湿地、生物多様性などについて実際に見て感じて理解できるようにトータルコーディネートする。
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	トータルコーディネイターは増員したものの、湿地環境の保全に関して市民参加できるプログラムが少ない。
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	増員したトータルコーディネイターが野鳥園事業での経験が浅いこと
	課題 (上記要因を解消するため に必要なこと)	トータルコーディネイターのスキルアップにつとめ、各事業の充実を図る。
	手法	<ol style="list-style-type: none"> 1. トータルコーディネイターの育成、教育を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1) トータルコーディネイターが他湿地管理団体と交流することによって、視野を広げる。 2) 湿地の環境保全に関して市民参加できるプログラムを実施する。 3) トータルコーディネイターのうち一名は広報・啓発分野を専門に担当し、重点的に取り組む。

	中間評価 (評価日：平成 28 年 12 月 20 日)	年度評価
年度目標の 達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
取り組み事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度加わった若手のコーディネイターとともに、環境調査や湿地の手入れに関する設計や企画を行い、スキルアップにつとめた。 2. トータルコーディネイターのうち一名は広報・啓発分野を専門に担当することとし広報・啓発分野の強化を図った。また、来年度新たにパンフレットや展望塔に設置する下敷きの作成も検討している。 3. トータルコーディネイターの企画により、新たな試みとして、事業を担当する大阪市職員以外も広く野鳥園に関する知識を深めることを目的とし、大阪市と NPO 法人南港ウェットランドグループとで勉強会を開催した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若手コーディネイターが積極的に、環境調査や湿地の手入れに関する設計や企画を行い、スキルアップにつとめた。 2. 広報・啓発分野担当のトータルコーディネイターにより、平成 29 年度に具体に取り組み野鳥園だよりやパンフレット、展望塔に設置する野鳥案内作成にむけた企画準備を行った。 3. トータルコーディネイターのスキルアップのため、9 月に大分県中津干潟で活動するグループと意見交換会を行うほか、11 月には全国の他の湿地管理団体との勉強会に参加した。
評価 自己評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他湿地管理団体との交流を行う際、若手コーディネイターも参加することにより、視野を広げ、事業の運営に生かすようにしている。 2. パンフレットに関しては、野鳥園の干潟や生きものの最新の状況を解説したものとし、環境学習会などでも役立てられるような内容とする。下敷きは季節ごとに作成し、野鳥園に飛来する鳥類を紹介するものとする。 3. 勉強会には緑地の維持管理作業を行う大阪市職員あわせて約 20 名が参加し、野鳥園の歩み、干潟・湿地や植栽部分の状況、それぞれの環境を野鳥がどう利用しているかなどについて、知識の深化を図ることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間の各事業の企画・実施や、全国の他施設との意見交換等により、一定スキルアップが図れた。今後もスキルアップに取り組み、市民が実際に体験し、学習できる環境保全プログラムを企画していきたい。 2. 大阪市職員との勉強会により野鳥園に対する知識の共有化が図れたことは、非常に有効であったため、次年度も引き続き実施していきたい。
課題と改善策	<ol style="list-style-type: none"> 1. トータルコーディネイターが、市民が実際に体験し、学習できる環境保全プログラムを企画する。 (具体的には、市民ボランティアを募り、鳥類のえさ場を狭めている北池のカキ礁を南池に一部移動 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 展望塔から干潟までの距離による観察のしづらさを解消するため、干潟内部での野鳥観察も検討していきたい。 2. トータルコーディネイターの育成の観点からも、引き続き、他都市

		<p>し、鳥類の休み場として活用するプログラムの実施を検討する。3頁参照。)</p> <p>2. 観察場所である展望塔と干潟の間に距離があり、渡り鳥の観察にあたってはその生態をじっくりと観察しにくいという課題があるため、トータルコーディネイターにより新たな環境学習プログラムを検討する。</p>	<p>との交流を行いつつ、組み事例などもさらに研究していきたい。</p> <p>3. 将来のトータルコーディネイターの人材確保につなげていくため、リピーターやボランティア確保の取り組みも検討しつつ、野鳥ガイドのさらなるスキルアップに引き続き取り組む。</p>
	<p>委員評価</p>	<p>トータルコーディネイターの育成については、他都市の環境学習の良い取り組み事例を参考に検討を行ってみてはどうか。</p> <p>また、サポーター制度が将来のトータルコーディネイターの発掘につながるものとなるよう期待する。</p>	<p>人材育成のシステムについては、制度設計を行い、取り組んでほしい。</p>

重点的に取り組む課題 ー (4) トータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	平成 28 年度目標 (当初)	平成 28 年度実績	中間実績	最終目標 比較増△減	年度目標 比較増△減	平成 27 年度実績
人材育成	トータルコーディネイターの人材育成	5 人	4 人 (昨年度確保した人材のスキルアップ)	4 人	4 人	△1 人	達成	4 人
	トータルコーディネイターのうち一名は広報・啓発分野を専門に担当	実施	実施	実施	実施	達成	達成	—
他干潟保全団体との交流	環境学習や干潟・湿地の管理手法に関する情報交換	3 回	3 回	2 回	2 回	△1 回	△1 回	3 回
市民が参加できる環境保全体験	市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムの実施	2 回	2 回	—	3 月実施予定 (市民ボランティアによるカキ礁移動)	△2 回	△2 回	1 回